

2010 大会プレイバック

<マスターズ甲子園2010・第7回大会>

2010～2011シリーズ開幕

第7回大会では、各地方予選大会を勝ち抜き、代表OB試合への出場が決定した16チームから673名、甲子園キャッチボール参加者716名を合わせ、総勢1,389名が甲子園球場に集結し、731名のスタッフ・ボランティアが大会運営を支えました。

甲子園修築工事のため、6月中の1日開催となった2007-2009シリーズを終え、開催期間を11月中の2日間日程に戻し、秋の甲子園大会として再スタート。今回は16都府県において本大会出場を目指す予選大会が開催され、計288の高校野球部同窓会チームが参加、各地で熱戦が繰り広げられました。

開会式では、伊川谷北高校プラスハンド部の演奏に合わせて入場行進を行った後、法政第二OBの村上雅則氏(1960年夏、61年春と甲子園連覇、63年南海ホークス入団、64年サンフランシスコ・ジャイアンツで日本初のメジャーリーガーとして活躍)が選手宣誓を行いました。大会初日の記者会見には、マスターズ甲子園大会応援団長である重松清氏が出席されました。

代表OB試合には、最年少18歳、最高齢77歳からなる計702人の選手がベンチ登録しました。このうち591人が高校時代に甲子園出場の想いを果たせず、今回その長年の夢を実現しました。同チームで親子9組、兄弟3組が出場し、元監督・部長が6名、元女子マネージャーが23名、元プロ野球選手も6名がベンチ登録しました。大会2日間とも開催される甲子園キャッチボールには、41都府県より計358ペアが参加。元高校硬式野球部関係者(部員、監督、部長、コーチ、マネージャー)であれば、チームメイト同士や他校の元選手、兄弟等で参加できる「球友編」に61ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば親子で出場できる「親子編」に最年少0歳から最年長75歳までの241ペア、片方が元高校硬式野球部関係者であれば夫婦でキャッチボールができる「夫婦編」に56カップルが参加しました。

高校野球選手権大会の初代学生司会者である山内佑利子氏と第80回高校野球選手権大会の司会者である中谷麻意氏が典典司会を担当しました。また、夏の高校野球選手権大会の開会式入場行進でプラカード係をかつて務めた市立西宮高校OGが、高校時代にプラカードを持ってなかった同校OGを誘い、開会式入場行進でのプラカード先導役を実現。その他、かつて甲子園に働いた審判員、ボランティア・スタッフもそれぞれの想いで甲子園デビューを実現しました。

